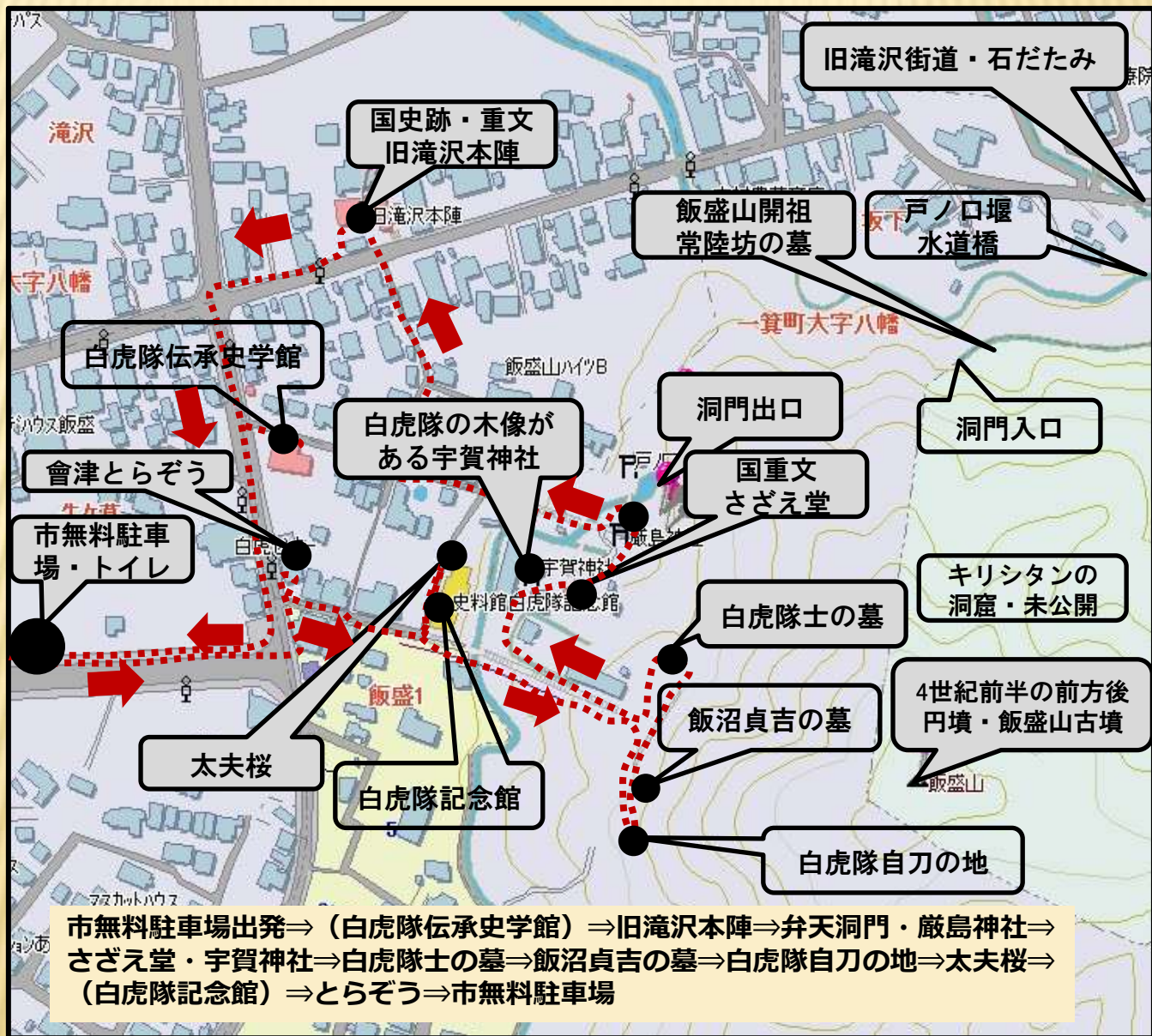


# 飯盛山史跡探索おすすめコース

2010 案内 会津古城研究会 石田明夫

## 飯盛山史跡探索おすすめコース 約1時間



国重文・旧滝沢本陣	大人300円・子供100円	0242-22-8525
国重文 さざえ堂	大人400円・子供200円	0242-22-3163
白虎隊記念館	大人400円・子供200円	0242-24-9170
白虎隊伝承史学館	大人300円・子供150円	0242-26-1022

おすすめの店  
**會津とらぞう**  
**0242-25-4188**

# 旧滝沢本陣と飯盛山の史跡



4世紀前半頃、全長約65メートルの前方後円墳、飯盛山古墳。円墳や戦国時代の飯盛山城跡、江戸時代前半のキリシタンの洞窟（未公開）もあります。山頂に巖島神社の奥宮があります。



4世紀前半、全長84メートルの前方後円墳、堂ヶ作（どうがさくやま）山古墳。1868年8月23日の戊辰戦争では、新政府軍が戸ノ口原の戦いで勝利し、午前8時頃には、この山に到達し会津盆地眺め進攻方向を確認しています。

1868年8月22日、滝沢本陣から白虎隊が出撃します。旧滝沢本陣は、東北最古の民家でもあり、歴代藩主が休憩した場所。戊辰戦争の弾痕跡もあります。飯盛山山頂には、会津大塚山古墳より古いと推定される前方後円墳の飯盛山古墳があります。北には、飯盛山の次に造られた前方後円墳の堂ヶ作山古墳があります。北側には、飯盛山を開祖した常陸坊の墓（供養碑）があります。

写真・文責 石田明夫



国史跡・旧滝沢本陣横山家住

会津藩主の松平氏が猪苗代町の土津神社や領内の視察、参勤交代の時に滝沢峠越えのため身支度を整えた場所。文禄4年（1596）に建築された東北最古の民家。延宝6年（1678）には本陣が開設されます。慶応4年（1868）8月22日（新暦の10月7日）藩主の松平容保公が白虎隊に出陣を命じた場所です。新選組の土方歳三も容保公警護のため本陣にとどまりました。

滝沢本陣にある新政府軍の弾痕跡。刀傷、打ち込んだ。弾痕跡。内。敷文書も展示された。敷文書も展示された。敷文書も展示された。



戸ノ口堰水道橋

元和9年（1623）から工事が進められた八田野堰始まり、元禄6年（1693）には若松城下までの延伸が決まり、戸ノ口堰と呼ばれるようになります。弁天洞門は天保8年（1837）家臣の佐藤豊助により貫通します。翌年若松城下まで完成します。



飯盛山開祖・常陸坊の墓

室町時代の供養碑。未指定

# 飯盛山 国重文 さざえ堂

(旧正宗寺・円通三匠堂、きゅうしょうそうじ・えんつうさんそうどう)

さざえどうは、三匠堂（さんそうどう）ともよばれ、三十三観音を堂内に安置し巡るため建てられたもので、安永9年（1780）江戸本所の羅漢寺に建てられたものが最初です。浅草のものが良く知られていました。

全国には、

- 福島県会津若松市の飯盛山  
旧正宗寺・円通三匠堂  
（三層・六角堂）
- 群馬県太田市の曹源寺観音堂  
（二階建ての方形）
- 茨城県取手市の長禅寺三世堂  
（二階建ての方形）
- 青森県弘前市の蘭庭院さざえ堂（二階建ての八角堂）
- 東京足立区西新井大大師  
（三階建ての方形三重塔）

があります。しかしながら、飯盛山のように、通路が登りと下りが別で、正面から登り、裏に下るスロープとなっているものは、他にありません。特異な建物です。

『新編会津風土記』に寛政8年（1796）完成。本尊は阿弥陀如来、三十三観音の木像を安置したと書かれているもので、西国三十三観音が安置されていましたが、明治3年の廃仏希釈により、飯盛山神社となり、観音像は、外され、皇朝二十四孝子の絵額が掲げられています。

高さは16メートルあります。

さざえ堂 大人400円・子供200円  
0242-22-3163

写真・文責 石田明夫



飯盛山墓地整備当時のさざえ堂



## 宗像神社

### 飯盛山の由来

昔、飯盛山の西麓を農夫が耕していた時、山頂に紫雲が立ち、その中に靈妃が現れました。多くの女の子を従え、農夫に近づき、堂を建てようにと云い、残して去ったという。農夫は石部・堂家・石塚の三家に相談し、永徳年中（一三八一〜八四）に堂が建てられたと云う。女子は、赤小豆飯を茶碗の盛り（飯盛山の由来）と、その牛を従えて歩いた。その場所が牛馬の由來（牛馬の墓）である。



# 飯盛山白虎隊士19人墓と 17人自刃の真相

白虎隊がくぐった飯盛山の弁天洞門は、現在長さ約179.94メートル、高さ1.8メートルあります。慶応4年（1868）8月23日（新暦10月8日）戸ノ口原で戦った白虎隊は、新政府軍に遭わないよう山道を通り、洞門をくぐり、弁天堂で休憩し、飯盛山中腹にある自刃の松まで行きました。

飯沼貞吉が書き残した『白虎隊顛末記』によると、滝沢峠で軍兵に遭い、敵か味方か合言葉を掛けますが、応対せず、銃を向け永瀬雄治が腰を撃たれ飯盛山へ逃れます。そして洞門をくぐります。墓地の上に進み「滝沢街道を進む敵を衝くか」、「若松城に入るにしかず」と各自怒り、ののしり、激論となります。篠田儀三郎が「最早（もはや）欺（か）くなる上は策の講ずべきなし」「潔くここに自刃し、武士の本分を明にするにありと」とあり自刃が決まります。午前10時～11時頃です。服装は、すべて洋装で、自刃したのは遅く飯盛山にたどり着いた石山を含め17人、その中で飯沼貞吉だけが生き残ります。明治17年に16人の墓が造られ、明治23年に戸ノ口原で戦死した3人が加わり19人の墓が造られます。飯沼貞吉は後に貞雄と改名し79歳で亡くなります。仙台に墓があり、飯盛山の自刃の地手前にも墓が建てられています。

写真・文責 石田明夫



国重文、史跡、滝沢本陣



白虎隊がくぐった戸ノ口堰弁天洞門



白虎隊が自刃した当時の服装の木像にして安置した飯盛山の宇賀神堂。上の服はすべて洋装です。



白虎隊が自刃した松。今はありません。昭和初期の写真。遠く南西は若松城下



明治7年、取壊し前の鶴ヶ城、しゃちほこはありませんでした。個人蔵